

# 7 国際交流

## 進捗状況報告

○基礎的な状況を継続的に観測する指標			公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2004	2005	2006	2007	2008	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		公開	○	/	機関	/	/	/	/	/		
指標2	国際交流協定締結国数		公開	○	/	国	/	/	/	/	/		
指標3	海外からの学生の受け入れ	国数	公開	○	/	国	/	/	/	/	/		
		外国人留学生	正規	公開	○	○	人	0	0	0	0		外国人留学生÷在籍学生数
			交換	公開	○	○	人	1	1	4	10		
		外国人留学生 在籍学生比率	正規	公開	○	○	%	0.0	0.0	0.0	0.0		
			交換	公開	○	○	%	0.1	0.1	0.3	0.7		
その他 (セミナー等による受け入れ)	公開	○	/	人	/	/	/	/	/	/			
指標4	海外への学生の派遣	国数	公開	○	/	国	/	/	/	/	/		
		人数	長期	公開	○	○	人	3	0	0	0		
			短期	公開	○	○	人	1	2	1	2		
		在籍学生比率	長期	公開	○	○	%	0.2	0.0	0.0	0.0		
短期	公開		○	○	%	0.1	0.1	0.1	0.1				
指標5	人的国際学術研究交流 (受け入れ教員数)		長期	公開	○	○	人	1	1	0	2		
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)		短期	公開	○	○	人	3	3	3	2		
			長期	公開	○	○	人	0	0	0	1		
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)		短期	公開	○	○	人	58	107	91	91		
			長期	公開	○	○	人	0	0	0	1		
○施策の目標の達成度を測る指標			公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2004	2005	2006	2007	2008	備考	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		公開	○	/	人	/	/	/	/	/		
<p>注) 全学的な視点、個別的な視点について  全学的な視点とは国際教育協力センターの進捗状況報告シートに表示される項目  個別的な視点とは各学部の進捗状況報告シートに表示される項目</p> <p>注) 正規、交換について  正規とは学位取得目的、交換は正規以外とする。</p> <p>注) 長期、短期について  指標4: 1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。  指標5・6: 1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。  注) 指標4は学部、研究科を合わせた数とする。</p>													

本学の国際交流に関する基本方針に則り、理工学部においても外国人研究者の積極的な受け入れ、研究情報の交換を行っている。外国人留学生の受け入れに関しては、2005年度までは外国人留学生（交換）が1人であったが、2006年度は4人、2007年度は10人と増加傾向にある。さらに2008年7月には中国・吉林大学生命科学院と理工学部との連携協定が結ばれ、教育・研究交流が始まる。今後、両大学間の交流は活発化してくるものと思われる。

人的国際学術研究交流の指標では、海外からの受け入れ教員数はここ数年横ばい状態が続いている。一方、多数の教員が海外に派遣されており、国際的な場で積極的に情報発信していることがうかがえる。

学生の国際性を高める取り組みとしては、特色GP「理系学生のためにデザインされた英語教育システム」のプロジェクトを推進し、理系の学術分野で「使える」英語教育を目指す活動を行った（「6.1カリキュラム編成」参照）。

## 学内第三者評価

外国人研究者の受け入れや研究情報の交換は堅調に進んでいる。外国人留学生の受け入れは増加傾向にあり、海外の大学との交流も多い。特に、短期においては、多数の教員が海外に派遣されていることは評価できる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。  
交換留学生の増加は評価できるが、留学生数、派遣学生数ともに極めて低調である。  
短期教員派遣を除き、教員交流には一層の努力が期待される。とくに理工系という学問領域から考えて教員受け入れの大幅な増加が必要である。そうしないと、折角、科学英語など「使える英語教育」の優れた努力が実践に活かされることにならないのではないかと。